平成 25 年 8 月 30 日
東京ミッドタウンマネジメント株式会社

報道関係各位

Tokyo Midtown Award 2013　ニュースレター第 4 号
次世代を担うアーティスト・デザイナーを発掘・応援する、東京ミッドタウンの取り組みをお届けします！

＜アートコンペ＞いよいよ最終審査間近！

10 月 8 日（火）最終審査会開催

東京ミッドタウン（事業者代表　三井不動産株式会社）は、街のコンセプトである“「JAPAN　VALUE（新しい日本の価値・感性・才能）」を創造・結集し、世界に発信し続ける街”を目指す一環として、毎年、＜アートコンペ＞と＜デザインコンペ＞からなる「Tokyo　Midtown　Award」を開催しています。過去 5 回の開催で、延べ応募者数約 6 千組の中から、＜アートコンペ＞では 21 組、＜デザインコンペ＞では 45 組の受賞者が生まれ、活躍の場を広げています。本ニュースレターでは、＜アートコンペ＞の応募状況や 7 月 22 日（月）に行われた公開 2 次審査の結果、審査員のコメント、そして今後審査の流れを、過去の受賞者近況などとあわせてご紹介します。

＜目次＞

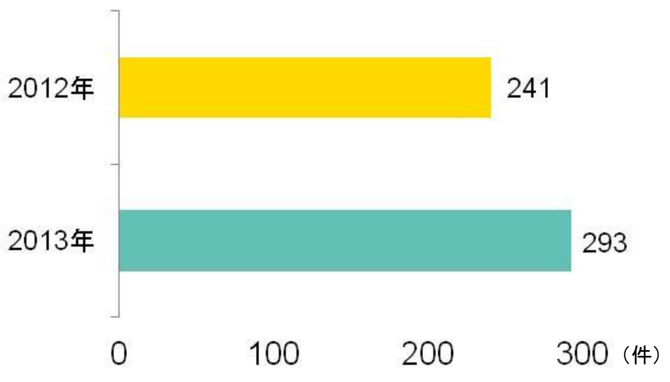
1.　＜アートコンペ＞　いよいよ最終審査会（10 月 8 日（火））開催！応募状況、2 次審査通過作品情報
2.　＜アートコンペ＞　今後の審査の流れ
3.　＜アートコンペ・デザインコンペ＞　東京ミッドタウン・オーディエンス賞について
4.　＜アートコンペ＞　審査員からのコメント
5.　＜アートコンペ＞　過去受賞者の近況とコメント

1.　＜アートコンペ＞いよいよ最終審査会（10 月 8 日）開催！　応募状況、2 次審査通過作品情報

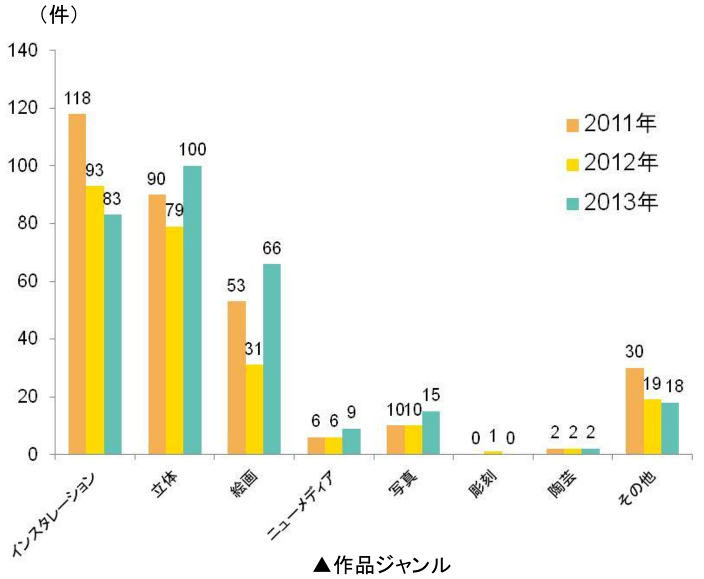
6 月 6 日（木）に募集を締め切った＜アートコンペ＞。今年は「都市」をテーマに作品を募集し、昨年を上回る 293 点の応募がありました。特に平面作品の応募が昨年より倍増しました。これは昨年平面作品が 2 点入選したためと考えられます。そして書類による 1 次審査、7 月 22 日（月）の公開 2 次審査を経て、ついに最終審査に挑む 6 作品が決定しました。今後、10 月 8 日（火）に最終審査を実施し、グランプリ・準グランプリを各 1 点、優秀賞の 4 点を決定します（最終審査会の詳細は 3 頁をご参照ください）。

受賞作品は 10 月 18 日（金）に授賞式及び東京ミッドタウンオフィシャルサイトにて発表します。以下は今年の応募状況データと 2 次審査を経て最終審査に進む 6 作品です。

応募状況データ



▲応募総数　昨年度比



▲作品ジャンル

2 次審査通過作品　※50 音順（作家名）

作品名：『東京ドリーム』

<u>赤嶺　智也（あかみね　ともや）</u>

＜年齢／肩書き／最終学歴＞

28 歳／画家・イラストレーター／

ノーザンブリア大学　ファインアート専攻　中退

作品名：『単眼的風景：Gruppo del Laocoonte』

<u>鈴木　一太郎（すずき　いちたろう）</u>

＜年齢／肩書き／最終学歴＞

25 歳／学生

愛知県立芸術大学大学院 美術研究科　彫刻領域　在学中

作品名：『クレマアチス』

<u>スナックその　※アートユニット</u>

<u>・佐藤　元紀（さとう　げんき）</u>

＜年齢／最終学歴＞　26 歳／大阪芸術大学　卒業

<u>・渡邉　優（わたなべ　ゆう）</u>

＜年齢／最終学歴＞　29 歳／多摩美術大学　卒業

作品名：『TRANSFORM』

<u>中里　洋介（なかざと　ようすけ）</u>

＜年齢／肩書き／最終学歴＞

26 歳／アーティスト／

東京藝術大学大学院 美術研究科　先端芸術表現専攻　在学中

作品名：『Tokyo Atlas』

<u>山上　渡（やまかみ　わたる）</u>

＜年齢／肩書き＞

32 歳／美術作家

作品名：『Corvus』

<u>渡辺　元佳（わたなべ　もとか）</u>

＜年齢／肩書き／最終学歴＞

32 歳／アーティスト／

武蔵野美術大学　造形学部　彫刻学科　卒業

■ 今年の応募作品の傾向

昨年より応募数が増加し、彫刻や平面作品のみならず、映像、インスタレーション作品等幅広い分野にわたりました。なかでも平面作品は、昨年よりも応募数が倍増し、昨年 2 点の平面作品が入選した影響がうかがえます。審査員評にあるように、応募されるアーティストのレベルが大変高く、選考に例年より時間がかかりました。

2. ＜アートコンペ＞ 今後の審査の流れ

10 月 8 日（火）の最終審査にてグランプリ・準グランプリを各 1 点、優秀賞の 4 点を決定。その後、受賞作品は 10 月 18 日（金）の授賞式にて発表します。

■ 最終審査会（10 月 8 日（火））について

公開 2 次審査を通過した 6 作品を実際に東京ミッドタウン プラザ B1F に展示し、10 月 8 日（火）に、その場で最終審査を実施します。

昨年の最終審査の様子

日 時: 10 月 8 日（火） 10:00～12:00
場 所: 東京ミッドタウン プラザ B1F
審査員: 児島やよい、清水敏男、土屋公雄、中山ダイスケ、八谷和彦（敬称略、五十音順）

＜最終審査のプログラム（予定）＞
・10:00～10:45(予定)・・・・作家による審査員への最終プレゼンテーション（プラザ B1F 展示スペース）
・10:50～12:00(予定)・・・・審査委員による最終審議 （東京ミッドタウン カンファレンス Room9）
※どの時間帯もご取材可能です。最終審査の詳細及びご取材をご希望の方は事前にご連絡ください。

→現時点（最終審査の前）

作品募集 5 月 16 日（木）～ 6 月 6 日（木）必着	1 次審査 7 月 1 日（月）	2 次審査 7 月 22 日（月）	最終審査 10 月 8 日（火）	受賞作品発表 10 月 18 日（金） /展示（予定） 10 月 18 日（金）～11 月 10 日（日）
「都市」をテーマに 1グループ1作品案まで応募	応募された全作品 より 12 作品を選出	プレゼンテーション・模型審査にて 6 作品選出、その後制作補助金支給（各 100 万円）	グランプリ（1 点）、準グランプリ（1 点）、優秀賞（4 点）の計 6 点を決定	東京ミッドタウン プラザ B1F に作品展示

3. ＜アートコンペ・デザインコンペ＞東京ミッドタウン・オーディエンス賞について

10 月 18 日（金）の授賞式にて発表する＜アートコンペ＞、＜デザインコンペ＞の受賞作品は、10 月 18 日（金）～11 月 10 日（日）までプラザ B1F 展示スペースにて展示します。また、東京ミッドタウンのデザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」期間中の 11 月 4 日（月・振休）まで、同会場で来街者の一般人気投票を実施し、「東京ミッドタウン・オーディエンス賞」を決定します。
本年は、昨年秋に商品化された＜デザインコンペ＞2011 グランプリ作品『縁起のいい貯金豚』をモチーフにした投票箱で投票を受け付けます。

尚、投票された方の中から抽選で 5 名様に、『縁起のいい貯金豚』（きんとん）をプレゼントいたします。

『縁起のいい貯金豚』を模った投票箱（イメージ）

4. ＜アートコンペ＞　審査員からのコメント

■ 児島　やよい

（フリーランス・キュレーター／ライター／慶応義塾大学、明治学院大学非常勤講師）

2 次選考に残った 12 組、いずれも実力は伯仲して見応えのある作品プレゼンテーションとなり、楽しくも難しい審査だった。特に立体については、新たな設置場所を考えて、コンセプト、ビジュアルともに際立つ作品が最終的に残り、平面もインパクトのある 2 点となった。よりストリート性の高いスペースでは、「都市」のテーマを説得力を持って自分の表現にしていくことが求められると思う。最終審査で 6 組の実作を観るのが楽しみだ。

Photo by Herbie Yamaguchi

■ 清水　敏男

（東京ミッドタウン・アートワークディレクター／学習院女子大学教授）

アートコンペは近年ますますレベルが上がって来た。300 点近くの応募作品から 2 次審査では 6 点を選ばなくてはならないが多くの興味深い作品が埋れてしまったのは残念だ。最後に残った作品には説得力があった。明確なメッセージというよりは人を惹き付ける魅力、アートだけが持ち得る存在感である。パブリックスペースに設置されるという条件をクリアしていることも重要だ。タフな作品が選ばれるのはそうした事情による。最終作品に期待したい。

■ 土屋　公雄

（彫刻家／愛知県立芸術大学大学院教授／武蔵野美術大学客員教授）

今回参加されたアーティストのプロポーザルは、彫刻や絵画、映像やインスタレーションさらに建築と、これまで以上に幅広いものであり、そのクオリティーにおいても見応え十分のものであった。従って審査する側も、緊張とともに十分楽しませていただきました。

Photo by Miura Haruko

■ 中山　ダイスケ

（アーティスト／東北芸術工科大学情報デザイン学科教授）

展示場所が選べる事で、さらに街との絡みが作家に課された。2 次プレゼンという機会を使って、さらに何を訴えかけるのか？という点に言葉が不足している作家が多かった点が惜しまれる。約 300 分の 12 作という時点で、作家性や実力には疑いはないが、実現性と通りすがりの観客に対する説得力や仕掛けを、さらに突っ込んでプレゼンして欲しかったと思う。ますます難しいコンペになってきたので、レベルがどこまで上がるか楽しみである。

Photo by 米倉祐貴

■ 八谷　和彦

（メディア・アーティスト／東京藝術大学先端芸術表現科准教授）

2 次審査では 12 組の作家から 6 組を選んだのだが、最初の 3 組はわりとスムーズに決まったものの、残りの 3 組を決めるのがなかなか難しく、審査は白熱した議論になった。それだけ 1 次審査通過者の実力が拮抗していたわけなのだが、結局のところ、最後は展示場所での実現性を頼りに残り作品 3 つを選定せざるを得なかった。公共空間に展示するという東京ミッドタウンアワードアートコンペの条件を考えるとそれはしょうがないが、それだけに今回選ばれなかった 1 次審査通過作家に対し「めげずに自分の作品をちゃんと実現しよう」と期待したい。作家性とは、つまるところそういう執着の量で固まっていくこともあるので。

〒107-6205　東京都港区赤坂 9−7−1　ミッドタウン・タワー5F　Tel：03-3475-3141／Fax：03-3475-3144

東京ミッドタウンマネジメント株式会社

5.　＜アートコンペ＞　過去受賞者の近況

■　大村　雪乃　さん（おおむら　ゆきの）～文具シールを用いた夜景の絵で注目を集める～

アーティスト／「Tokyo Midtown Award 2012」入選・東京ミッドタウン・オーディエンス賞受賞

1988 年中国吉林省生まれ／2013 年多摩美術大学　美術学部　絵画学科　油画専攻卒業

●　転機となった「Tokyo Midtown Award」入賞とオーディエンス賞受賞

数あるコンペの中で「Tokyo Midtown Award」は、当時まだ大学生だった私にとって難易度も高いものでした。しかし、展示会場の立地もコンペ条件も良いし、その上夜景シリーズを構想した最初のイメージと募集テーマだった「都市」が合致した理想的コンペでした。結果、シールを使った作品が多くの方に認められ、オーディエンス賞も頂くことができました。それをきっかけにアートに関わりのない人達が沢山、私のアートに目を向けてくださるようになりました。とにかく沢山のチャンスを頂きました。また、物怖じせずにどうどうと自分の作品をアピール出来た事は私の大きな財産です。

●　注目を集めるシールアート

絵を描くことに抵抗を感じる人はたくさんいると思います。えんぴつや絵の具で絵を描くよりも、シールを貼るだけで絵になるという発想は誰でも手軽に楽しむことができる画材として画期的なのではないでしょうか。

今後もアートの分野で、ますますシールという素材が画材として認知され、多くの方に親しまれるものであってほしいと思います。

受賞作「Beautiful midnight」

●　今後の展開

今後は、美術家としてキャリアを築きつつ、美術の分野だけにとらわれずに、ワークショップを毎月おこなったり、文房具メーカーの方へシールの製品販売についてアドバイスをしたり、企業のポスターデザインを手掛ける等、より社会の中で活かせる仕事もしていきたいです。9 月には、初の個展を開く機会を頂きました。「Tokyo Midtown Award」に入選して以来、一貫してシールで夜景を作り続けていましたが、その成果が一つの形として皆様にお披露目できる事をとても喜ばしく思うと同時に、これまで制作してきた自分を振り返ってみる良い機会だと思います。

東京ミッドタウンで開催したワークショップの様子

■　初の個展「Wonderful night」開催！　9 月 9 日（月）～

【企画展】Wonderful night　　【期間】2013 年 9 月 9 日（月）～9 月 14 日（土）

【場所】ギャラリーQ 東京　（東京都中央区銀座 1-14-12 第 17 ビル 3F）【問合せ】03-3535-2524

【Artist Statement】

丸いシールを使って都会の豪勢な夜景を表現する。 夜景は美しく、豪華な装いに誰もが魅了される。しかしそれらの灯りの一つ一つが安価な素材の集合体だと気づいた時、あなたはこれまでリッチでゴージャスだと思っていた夜景がどのように見えるだろうか。私たちの住む世界は虚像で溢れている。「虚像」は「距離」を置く事で「真実」となるが「真実」はまた「虚実」へと流転し、私たちはその曖昧で 不確かな現実の中でもがきながら生き続けている。これらはその混沌とした世界を切り取った「真実」の一端である。

■ 「Tokyo Midtown Award」入選者が「瀬戸内国際芸術祭 2013」に出展

過去に「Tokyo Midtown Award」<アートコンペ>に入選した、栗真由美さん（「Tokyo Midtown Award 2011」入選、オーディエンス賞受賞）と角文平さん（「Tokyo Midtown Award 2012」入選）が「瀬戸内国際芸術祭 2013」に作品を出展しています。

【展覧会名】　瀬戸内国際芸術祭 2013　アートと島を巡る瀬戸内海の四季
【期　　間】　春：3 月 20 日～4 月 21 日（終了）
　　　　　　　夏：7 月 20 日～9 月 1 日
　　　　　　　秋：10 月 5 日～11 月 4 日
【開 催 地】　瀬戸内海の 12 の島＋高松・宇野　※詳細は下記公式 HP をご参照下さい。
【公 式 HP】　http://setouchi-artfest.jp/

● 栗 真由美（くり まゆみ）さん

【作 品 名】 記憶のボトル

男木島の記憶をボトルに封じ込め、小さなあかりをともすインスタレーション。びんの中には、作家が島で見つけたものや島の人の生活の思い出が入っています。蔵の中で約 1000 本もの記憶にあかりがともされ、幻想的な空間が生まれます。

【公　　開】 春、夏（7/20-9/1）、秋（10/5-11/4）
【作品の展示場所】 男木島

「栗　真由美さん」

「記憶のボトル」

● 角 文平（かど ぶんぺい）さん

【作 品 名】AIR DIVER（エアーダイバー）

男木島と海の風景をモチーフにした複数のオブジェを、海が一望できる部屋に展示するインスタレーション。オブジェの配置を工夫し、海の中から島の風景が見える仕掛けを施す。

【公　　開】春、会期外、夏（7/20-9/1）、
　　　　　　会期外（9/2-10/4）、秋（10/5-11/4）
【作品の展示場所】 男木島

「角　文平さん」

「AIR DIVER」 撮影：高橋公人

【作 品 名】夢枕の船

朽ち果てた漁船の夢枕に立ってみると、そこにはどんな風景が広がっているでしょうか。高松港を舞台に、舟をモチーフとした作品を公開制作し、インスタレーションを展開します。

【公　　開】夏（7/20-9/1）
【作品の展示場所】 高松港・アート工房 －ベンガル島―

「夢枕の船」

〒107-6205　東京都港区赤坂 9－7－1　ミッドタウン・タワー5F　Tel：03-3475-3141／Fax：03-3475-3144